宮崎大学教育学部紀要　第 99 号　(2022)　34-45 頁

つながりを意識した中学校家庭科の授業構成と学び

－消費生活と衣生活分野の関連を中心に－

宮本由宇[*1] 伊波富久美[*2] 今村愛実[*3] 岩見ミカ[*3] 大矢英世[*4]

Class Structure and Learning of Junior High School Home Economics that is Conscious of Connection between Units: Focusing on the Relationship between Consumer Life and Clothing Life

Yu MIYAMOTO[*1], Fukumi IHA[*2], Manami IMAMURA[*3], Mika IWAMI[*3] and Hideyo OYA[*4]

Ⅰ. 研究の背景および目的

小・中・高校の学習指導要領の改訂により、消費生活分野においては、小学校で売買契約を取り扱い[1)]、高校では成人年齢の引き下げによる消費者被害への対応[2)]などが喫緊の課題となっている。今回の改訂で、家庭科教員の契約や高校での金融教育[注1)]への関心はより高まることになり、それに向けた授業開発も今後、盛んに行われることであろう。

その一方で、いかに買うか、契約を結ぶか、資産形成するのかといった消費行動そのものの問題のみならず、消費生活が環境や社会とどのような関わりを持っているのか理解した上で、自らの消費行動について考えていく授業展開もその重要度を増している。

そこで本研究では、中学校の消費生活分野の授業構想にあたり、まず小学校からの学びのつながりをふまえた上で、消費生活を環境や社会との関わりにおいて具体的に捉えられるよう、衣生活分野と関連を持たせた授業展開を重視した。学習者が、生産者の思いや衣服の生産過程等の現状や課題にまで目を向けることで、どれほど消費生活の営みを幅広く捉え、自らの問題として引き寄せて学び得るのかその可能性について検討し、授業構想の課題と今後の方向性を示すことを目的とした。

Ⅱ. 研究内容及び方法

1.　小学校では、第５学年の消費生活の題材「生活を支えるお金と物」において、生産者の思いに触れる時間や自分の家族を意識させた買い物場面を設定することによって、購入後の物の使い方との関連についても考察できるよう指導計画を作成した。2022 年１月に５年生１クラス 33 人（男子 17 人、女子 16 人）を対象に授業を実施し、ビデオカメラで授業内容を記録すると共に、児童が記入したノートの記述内容について分析を行った。それらの分析結果をふ

＊1 宮崎大学教育学部附属中学校　＊2 宮崎大学大学院教育学研究科　＊3 宮崎大学教育学部附属小学校
＊4 宮崎大学教育学部

まえた上で、中学校では、消費生活と衣生活の題材をつなぎ、衣服の生産過程や商品が手元に届くまでの過程等での現状や課題にまで学習対象を拡大して購入を捉えさせ、自らの消費生活について再考察できるようスパイラルな構造の下記の授業を構想した。

２．中学校での題材「消費行動が環境や社会に与える影響」（全６時間）は、2022年１月から２月にかけて中学２年生４クラスを対象に実施し、そのうちデータが得られた１クラス40人（男子19人女子21人）を分析対象とした。授業内容及び学習過程についてビデオカメラで記録するとともに、生徒のワークシートの記述内容についても併せて分析を行い、消費生活を捉える視点の広がりや自らへ引き寄せた対象把握の状況などについて検討した。

Ⅲ．研究の成果と課題

(1) 小学校での授業構想と学び

小学校においては、第５学年の題材「生活を支えるお金と物」の指導計画を全８時間で資料１のように作成し、よりよい買い物ができるよう「めざせ！買物名人」とゴールを設定・共有した。その上で題材全体を通して“家族にふるまう料理の食材を買いに行く”との状況を設定することにより見通しを持たせ、各時間がつながる授業構成とした。

第１時には、金銭を使っている場面や自らの消費行動を振り返り、第２時以降で消費者の役割や商品の選択について考えさせている。そこではまず、売買契約等の基本的事項を押さえた上で、生産者の思いに触れる授業を組み込み、その後に本時「商品のよりよい選び方」（第3/6時）を設定した。

本時では“家族に野菜サラダを作る”という場面を想定して、自分だったら３種類のレタスのうちどれを選ぶか考えさせた。

教師は品質、値段、量の異なる３種類のレタスを示すことで、それらが購入時の重要な視点であることを押さえるとともに、「他に知りたい情報はない？」と児童の側から、商品購入に必要な情報を挙げさせ、視野を広げようとした。

実施した本時の授業において、児童は野菜サラダに使うレタスを３種類のなかから思い思いに一つ選び、選んだ理由について他者と活発な意見交換を行なっていた。児童のノートには、自分がそのレタスを選択した理由として、以下のような記述が見られた。

児童⑥は、「安くて量が多いだけではなく、

資料１：「生活を支えるお金と物」の指導計

段階	主な学習活動及び学習内容
生み出す(1)	１　金銭を使っている場面や、日常の消費行動をふりかえりながら問題を設定する　〈１時間〉 ○　消費行動のふりかえり ○　収入と支出のバランス ○　ゴールの設定 【学習問題】 ―めざせ！買物名人― よりよい買物をするためには、どのようなことを大切にするとよいのだろう。
挑む(6)	２　消費者の役割や商品のよりよい選び方について考える ○　消費者の役割 ・　売買契約　〈１時間〉 ・　生産者の思い　〈１時間〉 本時3/6　○　商品のよりよい選び方　〈１時間〉 観点例 ・　食べきれる量の物 ・　安心な物 ・　消費期限が長い物 ３　買物計画を立てる　〈１時間〉 ４　買物に行く　〈２時間〉
生かす(1)	５　実践報告会を行う　〈１時間〉 ○　実践したこと

せん度や使いやすさも考えていきたいと思いました」（以下、丸囲みの数字は識別番号であり、下線は筆者による）と学習指導要領解説にも示されている値段、分量、品質[注2)]の購入の視点について記述し、児童④は、「安全かどうか、値段、量、生産地、品質、消費（賞味）期限を大切にして、買い物をしたいです。」と安全性にも言及していた。この児童は、前時の生産者の話を聞いた後、消費者の役割は、「農家さんががんばって、安心・安全に作ってくれたので、感謝をして残さずに食べること。」であると記述しており、生産者の話をふまえて本時での“購入時の視点”に安全性を加えたことが推察された。児童⑦も前時に「大切に作ってくれているから、残さずに食べたり、感謝する。」と記述し、本時では「いる量だけを買って、お金を大切に使ったりすること」を学んだとしており、前時の生産者の思いに触れる学習が購入を捉える視点を広げ、購入後のことも合わせて考えることができるようになっていたといえる。

他方、児童⑨は「ねだんも大切ですが、自分がつくろうとしているものに合った量のものを買うことも大切だということを考えながら買い物をしたいと思います。」と料理での使用量を考慮した購入を考えようとしていた。また児童⑧は「食べる人数をはあくして、どれくらい食べるかを予想する。」ことを大切にしたいと記述し、「… 一つの材料がいろんな種類で、はんばいしている理由は、いろんな家族がいて、どんなふうにかうか家族数ずつあるから。（いろんなかい方をするから）」と、家庭の多様な状況に応じて販売もされているのではないかと推察していた。

小学校では、購入の観点として値段、分量、品質などを中心に取り上げるが、購入時点でのそれらへの着目だけにとどまらず、購入後にいかに活用するかという視点も同じく重要である。それを本題材においては、生産者の思いに触れる時間を設定するとともに、“家族にふるまう料理の食材を買いに行く”との状況を設定することで、食品（＝商品）を残さず食べたり（＝物を大切に使う）、料理の内容や家族の人数に合わせて必要とされる量だけ購入する（＝購入後の活用に照らした購入）ことの必要性についても、児童は目を向けることができていたといえる。

(2) 中学校・消費生活分野の授業構想

中学校の年間計画は資料２の通りである。第２学年の題材「身近な消費生活」及び「環境」に全12時間を配当し、それらの学習の前に、衣生活分野の題材「日常着の活用」、「日常着の手入れ」、「生活を豊かにする物をつくる」を設定した。家庭科の学習は具体性があり、消費生活分野においても他分野の学習対象とつなぐことによって、生徒が自分に身近な問題として具体的に考えることを可能にする。そこで資料３に示した小題材のうち特に題材「６、消費行動が環境や社会に与える影響」（全６時間）において衣生活分野と関連させ、衣服の購入に焦点化して考察が深められるよう授業を構成した。その指導計画は資料４の通りであり、第２時（本時）の指導過程は資料５に示した。題材及び本時の構成の視点は以下の通りである。

1）小学校との関連

小学校では購入の際の基本的な観点（値段、分量、品質など）にとどまらず、“購入後の活用まで意識”した購入についての学習を構想・実施した。中学校ではさらにそれを発展させ、生産過程や商品が手元に届くまでの過程、さらには売れ残った商品の廃棄等の現状や課題との関連において、購入の在り方やその後の消費生活の営みについて考察する場を設定する。それにより消費生活を金銭管理や消費者被害等の問題のみならず多様な視点から捉え、より深く“購

資料２：中学校年間指導計画

		1	2 3	4 5 6	7 8 9 10 11 12 13 14	15 16 17 18 19 20	21 22 23 24 25	26 27 28 29 30 31 32	33 34 35
第１学年	題材	家庭分野ガイダンス	わたしの成長と家族	わたしたちと家族・家庭と地域	健康と食生活	食品の選択と保存	調理の基本	基礎的な日常食の調理	地域の食材と食文化
	学習内容		自分の成長と家族	家庭のはたらき 家庭生活を支える仕事	食事の役割と食習慣 栄養素の種類とはたらき 栄養素と身体の関係 中学生に必要な栄養の特徴 食品の栄養的特質 中学生の１日分の献立	生鮮食品の選び方 いろいろな加工食品 加工食品の表示 加工食品の選び方 保存のしかたを考える 食品の安全と情報	調理の計画 調理の基本 加工食品づくり （りんごジャム）	基礎的な日常食の調理 （肉の調理、魚の調理、野菜の調理）	地域の食材 郷土料理 食文化
	時数	1	2	3	8	6	5	7	3
	学習指導要領		A（1）ア	A(2)アイ	B（1）アイ（2）アイ	B（2）ウ	B（3）ア	B（3）ア	B（3）イ

第２学年	題材	快適に住まう	日常着の活用	日常着の手入れ	生活を豊かにする物をつくる	身近な消費生活	環境	生活の課題と実践
	学習内容	住居の基本的な機能 安全に配慮した室内環境 快適な室内環境の整え方	衣服のはたらき 目的に応じた着用・個性を生かす着用 衣服の活用と選び方	日常着の手入れ （衣服の洗濯・補修）	生活を豊かにするための工夫 布を用いた物の製作	家庭生活と消費 商品の選択と購入 消費者の基本的な権利と責任	環境に配慮した生活	
	時数	7	4	3	7	9	3	2
	学習指導要領	C（2）ア、イ	C（1）アイ	C（1）ウ	D（1）アイ	D（2）ア	D（2）ア	C（3）イ

第３学年	題材	幼児の発達	幼児の生活と遊び	おもちゃの製作	幼児とのふれ合い	3年間のまとめ
	学習内容	幼児期って 幼児の体の発達 ・心の発達 子どもの成長と家族・地域	幼児の遊びと発達 幼児の遊びを支える	幼児と遊ぶおもちゃ作り	幼児とのふれ合い体験 事前・事後指導	
	時数	4	3	6	4	0.5
	学習指導要領	A（3）ア	A（3）ア	A（3）イ	A（3）ウ	

資料３：「身近な消費生活」と「環境」（全１２時間）

１、消費生活のしくみと契約　・・・・・１時間
２、情報を活用した購入と支払い方法・・・１　〃
３、消費者のトラブルを防ぐ　・・・・・２　〃
４、消費者を支えるしくみ　・・・・・１　〃
５、消費者の権利と責任　・・・・・１　〃
６、**消費行動が環境や社会に与える影響・・６　〃**

入後の活用まで意識”した購入の判断やその後の意思決定について考えられるよう授業を構成した。

他方、環境問題に関しては、小学校・第６学年の題材「すずしく快適に過ごすための着方と手入れ」、「持続可能な社会を生きる」等において取り扱っている。また前述の第５学年の消費生活学習においても、児童は「残さずに食べたい」などと記述しており、環境との関わりに目を向ける契機となっていた。小学校でのそのような学びを中学校での“環境や社会との関わりを意識した消費生活”につなげて、自らの消費行動が投票行動と同じであり、自分が行った商品の選択が周囲に影響を及ぼしていることに気付くことのできる展開とした。

資料４：題材「消費行動が環境や社会に与える影響」の指導計画

時	主な学習活動　及び　学習内容
1	○消費者の声で変わった取扱い表示のラベルなどの事例をとおして消費者の権利と責任を考える
2（本時）	○自分の衣生活の現状を把握する ・自分の服の購入額や着用頻度 ・消費行動パターン ・衣服購入の判断基準 ○これまでの衣生活学習(製作実習,和服のデザイン考案と投票)をふまえ、綿のTシャツについて価格の内訳を予想する ○Tシャツの価格における縫製の割合が低い理由について考える ・原料と縫製が安い理由や背景には、何があるのか？ ・安いことで何か問題が生じているのか？ ○調査内容(綿花の栽培過程、布にするまでの過程、布に服をする過程)を班ごとに分担する
3～4	○調べてきたことを班でまとめ、発表・共有する ・自分達の消費行動がどのような循環をつくっているのかも含めてまとめる ・教師からも補足資料を提示し、説明を行う （映像：バングラディッシュ「ラナプラザ」崩壊事故、売れ残った服の行方） ・自分の消費行動と環境や社会がつながっていることに目を向ける ○綿花の栽培における水の大量消費や児童労働の問題、化学薬品の使用やファストファッションにおける縫製が抱える問題、余った服の処分の問題等について考える ○和服のデザイン考案・投票を振り返り、自分の買い物が投票行動と同じであることに目を向ける ○再度、自らの衣服購入の現状や着用頻度、消費行動パターンを振り返るとともに、衣服購入の判断基準について考え、第2時と比較し変化に着目する
5	○衣服の購入に限らず、家庭生活のあらゆる消費行動が、環境や社会と関わっていることに目を向ける ○“持続可能な生活のために”というテーマで、各自、家庭での課題と実践の計画を立てる
6	○課題と実践の報告会を行い、共有する ・班の中で相互に発表し合った後、代表者が全体で発表,共有する ○次の実践へ向けて課題を明確にする

2）自己の消費生活の実態や意識の外部化

資料４に示した本題材の第１時では、衣生活分野の学習時に持参した“お気に入りの服”のラベルから、衣服の取扱い表示や原産国表示などを確認したことを振り返らせた。その上で、消費者の声でラベルが変更された事例をもとに、消費者の権利や責任について押さえた後、第２時（本時）に入った。

資料５：本時（第２時）の指導過程

学習内容及び学習活動	指導上の留意点
1　自分のお気に入りの服について語り、自分の消費行動を可視化する	○衣生活分野の学習時に持参した“お気に入りの服”について語る場面を設定し、自分の衣生活の現状を意識化させる ・いくらぐらいで買ったの？ ・どのくらい着たの？ ○自分の消費行動がいずれのパターンに当てはまるか、挙手させる ・常に新しい服を手に入れたい ・気に入って購入した服をずっと使い続けたい ・もらい物の服をそのまま使い続けても良い ○自分の衣服購入の判断基準を明示できるよう、ワークシートの座標にシールを貼る時間を設定し、視覚的に把握させる
2　めあてを確認する 私たちはどんなことを考えて服を購入していけばよいだろう	・グループ内で相互に確認・共有させる ・クラス全体でも共有できる場を設定し、その理由を発表させる
3　衣生活分野での学習を振り返りながら、綿のTシャツの価格について内訳を予想する	○１500円の綿のTシャツという設定をして、価格の内訳を予想させ、ワークシートに理由を書かせる ・これまでの衣生活学習で行なった製作実習や和服のデザイン考案（資料6-1）、デザインの売り込みと投票(資料6-2)を想起させる ・価格の内訳を「縫製」,「メーカー」,「小売業」で示し、その価格の比率が500円ずつ等分になっている例（資料7）を示す ・班でで各自が記入した内訳とその理由について話し合わせ、その後クラス全体で発表し、共有させる ・実際の内訳が、「縫製」300円,「メーカー」450円,「小売業」750円であること、さらに「縫製」は“原料”15円, “縫製”135円であることを示し、その安さに着目できるようにする
4　原料と縫製が安い理由や背景について予想し、生じている問題について考える	○「安い理由は背景には何があるのか」、「何か問題が生じているのか」と問いかけ、ワークシートに予想を記入させる
5　各班で調査する内容を確認する	○綿から服ができる過程（綿花の栽培過程,布にするまでの過程,布を服にするまでの過程）を各班で分担して調査するよう促す

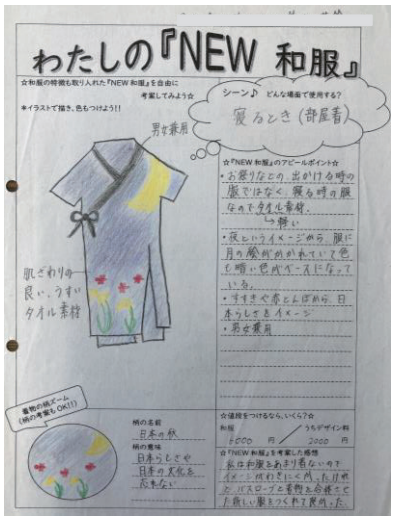
本時では、導入において生徒が学習対象を自分の問題として考察できるよう、前述の持参した服にどれほどお金をかけているか、どれほど着用しているか、意識させるとともに、衣服を購入する際の自分の判断基準をシールの貼付によって外部化させ、相互に確認・共有できる場を設定した。

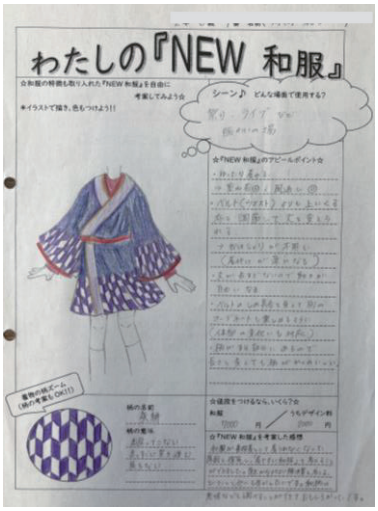
他方、衣生活分野において夏休みの課題として行なった和服のデザイン考案や発表（資料6-1）とともに、自分ならそれらの中からどれを選択するか投票した（資料6-2）ことについても想起させた。他者の作品に対して、投票するという活動を衣生活分野に組み込み、可視化させておくことによって､本題材で自分たちの無意識的な商品選択の状況を外部化した。これは、第４時において、その選択行動（消費行動）が社会に影響することを押さえていく伏線として位置付けている。

3）課題意識の喚起

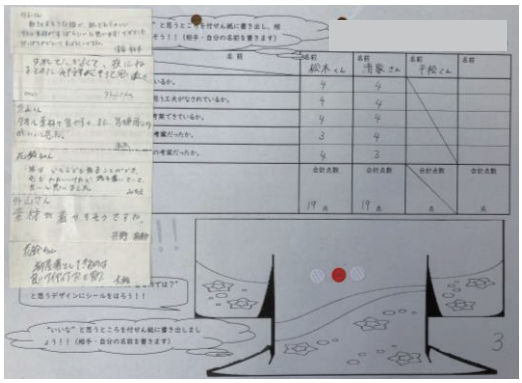
衣生活分野での自らの製作経験や、和服のデザインを考案しアピールした経験を振り返り、そこでの苦労やかけた時間を思い起こした上で、Ｔシャツの価格の内訳について考える場を設

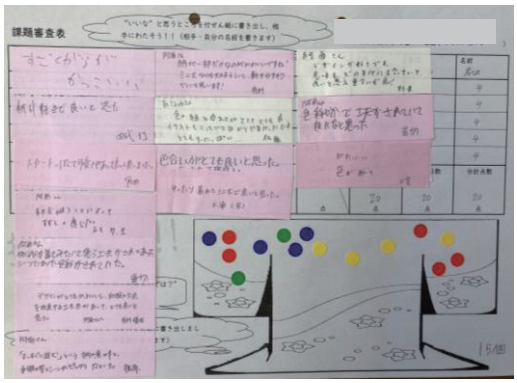
資料 6-1：和服のデザイン考案（例）





資料 6-2: 和服デザインへの投票結果（例）





定した。そこで生じた価格の内訳の妥当性に対する疑問や思いが、各自の調べ学習の契機となるよう配慮した。

4）課題の共有と考察

Ｔシャツの価格の内訳を「縫製」、「メーカー」、「小売業」に分類して示し、そのうち最も比率の低い「縫製」について、生徒が調べたことを相互に発表し共有できる場を第３～４時に設定し、課題について考察を深められるようにした（資料 4）。

5）消費生活に対する意識の変化の把握

課題の共有を行なった後、第２時（本時）にシール貼付で示した自らの“衣服を購入する際の判断基準”の図の上に、再度、シールの色を変えて現在の自分の基準を貼付させ、変化の視覚的な把握や他者との共有を容易にした。なお、衣生活分野で学習した衣服を選ぶ際の観点についても再度振り返り、本題材で着目した環境や社会との関わりの視点も加え、拡大して捉えていけるよう構想している

6）消費生活をとらえる視点の一般化

第５時では、これらの消費生活を捉える視点が衣服の購入にとどまらず他分野にも共通するものであり、一般化できることに目が向けられるよう配慮した。

(3) 題材「消費行動が環境や社会に与える影響」での意識化と学び

1）自らの衣生活の現状把握

本時の導入（「資料５の学習内容１）では、衣生活学習の際に持参させたお気に入りの服を想起させた上で、その購入金額と着用頻度について尋ねた。購入額は、22 人が 1000 円～ 5000 円としていた一方で、「わからない」も５人おり、自分が服にかけている額を把握できていない生徒も見られた。着用頻度に関しては、「まだ１、２回しか着ていない」から「週６日着ている」という生徒まで幅があったが、それを問われることにより現時点での着用状況に目を向けていたといえる。

また、図１のように、“流行のファッションにこだわるか否か”を横軸に、“価格の高低”を縦軸に４区画に分け、衣服を購入する際の自分の判断基準はどこに位置づくのか、現在の状況についてシールを貼って示させた。その結果、どの区画にも８人前後が貼付しており、服を選択する際の基準は分散していた。

衣服購入の実態や着用状況、購入の基準を外部化することによって、自らの現状の意識化すると共に、相互にそれらの状況を確認し共有する場となっていた。

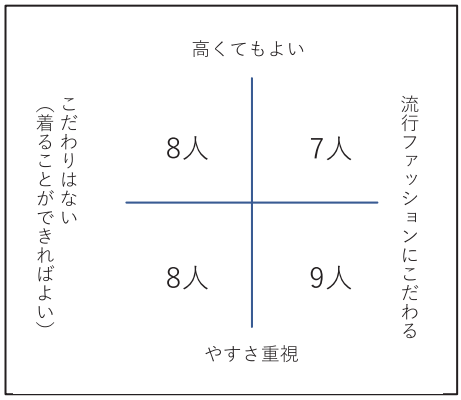


図１：衣服購入の判断基準

2）価格の内訳の吟味

資料５に示した学習内容３「綿の T シャツの価格の内訳を予想する」場面では、まず衣生活分野で行った製作実習や、和服のデザイン考案及びそれを他者に選んでもらうためにアピールを考えた経験について振り返った。その上で、生徒は T シャツの価格（1500 円）の内訳（「縫製」、「メーカー」、「小売業」の価格比）について予想した。教師は、例としてそれらが 500 円ずつ等分になっている資料７を示したが、生徒は「縫製」を 500 円と予想したのは６人で、それ以上の額とした者が 19 人おり（500 円未満は８人、不明１人）、多くの生徒が T シャツの価格における「縫製」の割合は大きいと考えていた。

教師から実際の価格内訳が「縫製」300 円、「メーカー」450 円、「小売業」750 円であること、さらに「縫製」の内訳は、“原料”が 15 円、“縫製”が 135 円となっていることが示されると、教室にどよめきが起こっていた。その背景には、衣生活学習での製作実習を通して、縫製にどれほどの労力と時間がかかるか身を持って体験し、その価値を認識していたことが考えられる。衣服を縫製する側に立って価格を捉えようとすると、自分の実感と実際の価格（1500 円のうちわずか 135 円）との間にギャップが生じていることが推察された。

資料７：価格の内訳（例）

他方、内訳の予想で「メーカー」を500円より高いと予想した生徒も17人と多かった（500円未満9人、500円8人、未記入1人）。これは日頃からメーカー品は価格が高いと感じていることや、衣生活分野において自分で和服をデザインしアピールした経験、すなわちメーカーの立場を擬似的に体験したことが影響したと考えられた。

3）問題の背景への着目

以上のようにTシャツの価格の内訳に目を向けさせた上で、教師は「なぜ“原料”と“縫製”はこんなに安いのだろうか？」と投げかけた。さらに「安い理由や背景には何があるのか？」、「何か問題が生じているのか？」と2つの問題提起を行い、まず予想をワークシートに記入させた。この段階（調べ学習に入る前）では、「安さの理由や背景」を「機械などによる大量生産」としていたものが17人と最も多く、無記入も4人いた。

また、「安いことにより生じている問題」については、「品質の低下」とした者が8人、無記入が11人と、多くの生徒が生じている問題を予想できていなかった。生徒たちは“縫製”の安さに驚きその状況に違和感を持ったものの、調べ学習前の段階では衣服の生産過程でどのような問題が生じているのか把握できておらず、予想することもできない状態にあったといえる。

その後、衣服の生産過程を“綿花の栽培過程”、“布にするまでの過程”、“布を服にするまでの過程”に分けて班ごとに分担し、各自調べ学習を行った。その調べた内容を第3～4時の授業で班ごとにまとめ、全体で発表・共有した。それと共に、教師も「ラナプラザ」崩壊事故や売れ残った服の廃棄について取り上げたビデオ等を用いて補足説明を加えた。一連の学習活動後に生徒が考察した内容は以下の通りである。

4）課題の把握と自らの消費生活の振り返り

調べ学習の内容を共有した後、33人中[注3)] 26人の生徒がワークシートの考察欄において、“衣服の生産過程の現状や問題”に言及し、例えば、生徒⑧は、「何気なく毎日着ている服がこんなにも過こくな環境で作られているものかもしれないなんて衝撃を受けました。環境汚染、人権の保護されない労働、それぞれが楽しみ心地よく生活するために服があると思うのに、これは大きな問題だと思いました。…（略）…」と記述していた。

その中でも生徒⑫は「深刻すぎてずっと驚きの連続だった。この問題は私たちが決して無視できない問題だと思った。妊娠中の女性もあの事故で亡くなったかと思うと二人分の未来を失ったようでとても悲惨だと思った。服が大量に廃棄されていたというのは知っていたことだったが、砂漠に捨てられていると考えるととても疑問に思う。「なぜ？」「どうして？」がたくさん頭の中で回って、この問題に深く興味を持った。…（略）…」と記述し、インパクトが大きかったことがうかがえた。

他方、衣生活学習の時間に、服に付いていたラベルを相互に確認し合った時の自らを振り返りつつ、生徒⑲は次のように記述していた。「自分たちが今着ている服がどこでどうやって作られているのかを初めて知った。確かにどこの産地かを見て「中国なんだー」、「やった日本だー」とは言っていたが、どのような労働とコストのもと作られているのかは、あまり知らなかった。ひどい労働環境の中で休みもせず、私たちと同じくらい年齢の、しかも女の人が毎日働いていると思うと、中国の産地であったり、全然知らない国産地というだけで「うわー、嫌だなー」などは言えない。言ってはいけないのだと思った。…（略）…」と生産者（国）に対する自ら

の偏見を意識化した上で対象を捉えようとしていた。

さらに生産過程の現状や課題へ目が向けられただけでなく、そこで生じた問題意識から、自分の衣生活の営み（自らの消費行動）にも言及した記述を24名にみることができた。例えば、生徒㉙は「自分たちに服が届くまでにどれだけの人が大変な思いをして作っていたのか知って衝撃を受けた。確かに安い値段でたくさんの人に買ってもらうのは大切だけど、労働者のことを考えると値段ばかりにこだわるのも良くないんじゃないかと思う。…（略）… 買う側の立場の人達がこの現状を知り考えを少しでも変えていかないと、この状況がずっと続いてしまうと思う。私も服を買う時に労働者の事を考えて買いたい。」と記述していた。その中には、生徒㉕の「コストカットのために様々な問題があることはよくわかったが、高いより安い方が欲しいし、たくさん欲しいという自分がいてそれはみんなも同じだと思うので難しいところだなと思った。…（略）…」のように自分や友達のホンネを見据えて考えたり、生徒㉘の「私が服を買うときはいつも、トレンドのデザインで安いものを選ぶので、「ファストファッション」に分類されると思った。さらに、「ファストファッション」の残酷な裏側を知ってしまったので、どうすればよいか分からなくなった。…（略）…」のように自分の消費行動を位置づけ直し、揺れが生じていた。

一方、生徒㉔は「私たちは今、当たり前のように服を買ったり着たりしているけど、服の生産にも他国の人の苦しい想いが込められていてとても悲しくなりました。服は安かったりするとつい買ってしまうけど、ちゃんとよく考えて…（略）…」と、生徒㉗は「自分が今まで着ていた服に、大量の人が労働者として働いて作っていたということを初めて知った。その服は着れなくなったら簡単に「捨てる」という選択しが、自分のなかでは、当然のようにあったので、見直していきたいと思った。」と記述し、これまでの自分の消費行動と向き合っていた。

また、生徒㉖は「外国で安い賃金で大量生産されているということは知っていたが、廃棄の方法までは知らなかった。砂漠にあのように放置されたり、燃やされているということを知りとても驚いた。自分たちは服をお金で買って着ているだけだが、それを作るのにはたくさんの人々の大変な思いがあるということを知り、もっと服を大切に着たいと思った。また、綿花栽培の時のＴシャツ１枚を作るのに必要は水が2700Lということを知って衝撃だった。服を効率よく作るための方法を考えてみたいと感じた。そして服は必要最低限だけの購入を心がけたい。」、生徒㉚は「自分たちはいつも何気なく服を着ているけれど、その服ができるまでの過程でこんなに衝撃的なことが行われていると知って、すぐにでも何とかしないといけない問題だなって思った。自分たちが今からでもできることとして、むだに服を買ったり、少し着ただけで捨てたりするのはやめようと思った。」、生徒㉟も「自分たちが今着ている服で、たくさんの人が辛い思いをしていることを知って、心が痛くなった。かといって服を無駄にしないように‼と　たくさん買うことはできないし、私たちにできるのは、今持っている服をできるだけ長く使い、簡単に捨てないようにすることなのではないだろうか。」と記述し、小学校で重点をおいていた購入後の活用を見据えた購入のあり方についての考察を引き継ぎ、さらに拡大させて社会的な視点から自らの消費生活を捉えようとしていたといえる。他国の遠い問題として済ませるのではなく、具体的に自分がどのように行動していくべきかについて考えようとしていた。

5）購入の判断基準の変容

調べ学習の内容を共有し考察した後に、再度、衣服購入の判断基準について、“流行ファッションへのこだわり”と“価格”を軸にした図に、授業当初（第２時）とは異なる色のシールを各自、貼付させた（第４時）。

その結果、当初は、４つの区画とも８人前後がシールを貼付していたが（図1）、この２回目の貼付段階では“流行ファッションにこだわる”が、“高くてもよい”と考える生徒が７人から13人に増えていた（図2）。また、区分自体は変わらないもののシールの貼付位置を微妙に上方（“高くてもよい”の方向）に移動させた者も10人見られた。すなわち、半数以上の生徒が高くても良いと考えるようになったといえる。

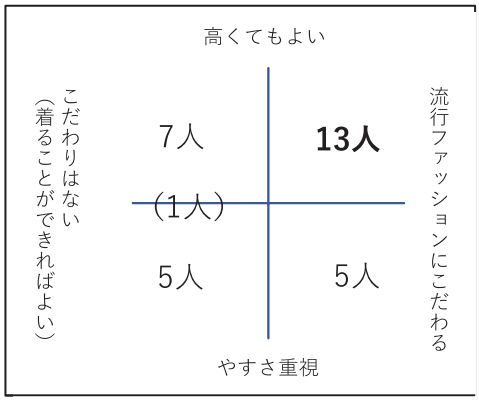
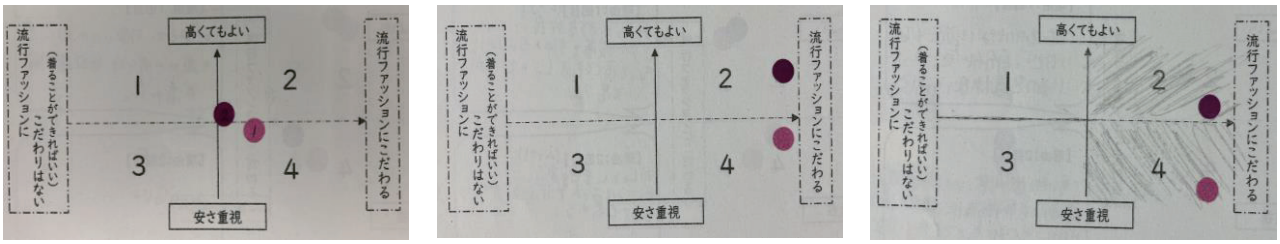


図２：２回めの判断基準

そのような変更（資料８に例示）を行なった生徒の２回目の判断基準の理由には、以下のような記述が見られた。

資料８：衣服購入の判断基準の変化（例）

生徒㉖　　生徒㉒　　生徒㉘



＊）資料８の１～４の数字は区画を示す

例えば生徒㉖（前述）は、１回目に第４区画にシールを貼っていた理由を「高くて枚数が少ないより、安くて枚数が多い方がよいから。また、流行には少しはこだわりたいと思うから」としていたが、２回目には上方向に変更し、その理由を「安いのを理由に買うのではなく、本当に使うものだけ買うことが重要だと思ったから」と購入後の活用についても考えて判断しようとしていた。同様に、第４から第２区画に変更した生徒㉒は、「生産者のことを思うと安い服ばかりが良いわけじゃないとわかった。多少高くても買いたい。」、生徒㉘（前述）は「ファッションにはこだわるが、原料・縫製に関わっている人のことも考える。」とファッション性は譲れないものの、生産者のことを考えた上で多少価格が高くなっても良いと第２区画に変更していた。

図２の上方向への移動という結果は、単に高い服を買いたいという意識を持つようになったとみるより、衣服の生産過程等の背景まで含めて、どのように消費生活（服の購入）を営むべきか考えるようになったことが影響しているとみることができるであろう。

(4) 今後の課題

以上、小学校での学びをつないだ上で、消費生活を具体的に捉えられるよう衣生活分野と関連させた中学校の消費生活分野の授業を構想し検証した。衣服の購入に焦点化し、自らの消費生活の現状を外部化できる場を設定すること、及び衣服の生産過程等の現状や課題を生徒が調査・発表し共有することを通して、自らの消費生活を振り返ることができ、その営みを購入時のみならず購入後の活用まで見据えて幅広く捉えていく可能性が示された。今回は、タブレット端末を利用した情報収集を行うことができなかったが、今後はそのようなツールも活用し広範な情報収集を行うことも可能になるであろう。しかし、その情報のどこに目を向けさせるのか、どのような方向づけや整理を行い、信憑性を意識させるのか等についての検討が必要になってくる。と同時に、教師も提示する情報を厳選していく必要がある。いずれにしても教師の課題意識に基づく働きかけはより一層重要になるといえる。また、生徒の気づきを自らの生活の営みにいかに反映させ、実践に移す機会や場面をどのように設定していくのか更なる検討が求められる。

Ⅳ. 注記

注１）文部科学省 , 高等学校学習指導要領解説　家庭編 (平成 30 年告示), 教育図書 .p.75 では「預貯金 , 民間保険 , 株式 , 再建 , 投資信託等の基本的な金融商品の特徴 , 資産形成の視点にも触れながら , 生涯を見通した経済計画の需要性について理解することができるようにする。」としている。

注２）身近な物の選び方について、文部科学省 , 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説家庭編 , 東洋館 .2018.p.67 では、「値段や分量、品質などの選ぶ際の観点を理解できるようにする。」としている

注３）コロナ禍にあった当日の出席者数

Ⅴ. 引用・参考文献

1）文部科学省 , 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示), 東洋館 .2018. p.139

2）文部科学省 , 高等学校学習指導要領解説　家庭編 (平成 30 年告示), 教育図書 .p.18

3）伊波富久美 , 川﨑夕子 , 福良維素子 , 平川祐子 , 岩見ミカ , 篠原久枝他 . 小・中連携をめざした家庭科授業の構想－「物や金銭の使い方」に関する授業実践をふまえて－ . 宮崎大学教育文化学部協働開発センター研究紀要　第 24 号 ,pp.77－87. 2015.

4）宮本由宇,伊波富久美,山口麻衣子,他. 消費生活分野における小中連携を視点とした授業の構想と実践－「商品の選択と購入」に関する中学校での授業検討－. 宮崎大学教育学部紀要,第95号,64－73. 2020.

5）大矢英世 , 宮本由宇 , 伊波富久美 , 他 . 総合的な学習の時間とつながる家庭科の学び . 宮崎大学教育学部紀要 , 第 97 号 ,136－147. 2021.